

仕事人秘録

2006年1月16日

夜、東京地検特捜部は堀江貴文氏率いるライブドアへの強制捜査に着手した。

何が起きているのか皆目分からなかった。翌朝からは自宅周辺に新聞やテレビの記者が20〜30人集まるようになった。18日の昼ごろに堀江氏が「ちょっと話したいことがある」と連絡してきたので会った。

やつれた表情で「万一の時はライブドアグループをお願いします」と会社を託そうとする堀江氏に、私は思わず「何が起きているのか」と詰問した。堀江氏は「わからない」を繰り返すだけだった。ただ、毅然(き)

人に恵まれた転職人生 ①

元ライブドア社長
平松 庚三氏



ライブドアを改革した平松氏の印象を受けた。世間にも影響を与えた。

強制捜査を境に人生一変

てくれた。本音では、いつものノータイでやりたかった。

を起用した。華やかな印象から堅実路線へ切り替えた。聡明な杉岡さんは私のイメージ戦略を瞬時に理解し、承諾してくれた。

強制捜査を境にグループの従業員やその家族の人生は一気に暗転した。広告収入が約9割も急減

た。節分やバレンタインなどの際は社内イベントを開催し、豆やチョコを配った。私の奮闘が本当に役立つのか定かではない。ただ、ライブドアが06年4月14日に上場廃止となった後も、多くの社員が社会や市場に対する責任を痛感し、従来以上に職務に真摯(しんし)に取り組んでいたのは、紛れもない事実だ。そんな彼らと一緒に働いた日々は私にとって最高の思い出であり、誇りだ。私が人生で最も成長できた2年間でもあった。

私がかつての社長として、大木さんからPRコンサルティンク会社であるブラップジャパンの杉田敏副社長(当時)を紹介してもらい、危機管理を含めた広報体制も見直した。広報の若い乙部綾子さんを外し、弥生の杉岡女久美マネジャーに2割程大きい声で話し

ぜん」と「法律違反はしてない」と明言したので、少し安心したことを覚えて

たが、背広にネクタイ姿で登壇することで世間に対しライブドアの変革を印象づけられたと思う。

し、くしの歯が欠けるように退職者が増えていった。私は残る社員の士気低下を最も恐れた。指揮官が疲れ

私が育てた弥生も07年9月、MBKパートナーズというファンドに710億円

翌週の23日、堀江氏ら幹部3人は証券取引法違反容疑で逮捕された。新体制を

決めた24日、ある人から電話があった。ソニー入社時の直属の上司だった大木充氏だ。「社長就任会見ではネクタイしろよ」と助言し

情を見せるなど論外だ。全社員に気遣うメールを送り、対面集会で激励するのを毎週1回、自分自身のノルマにした。意気消沈し

売却できた。やることは長を退任することにした。